

# WORD JUNGLE STEP.3

今回は“WORD JUNGLE STEP.3“について話をしていきます。

STEP.1とSTEP.2でもお話ししましたが、WORD JUNGLEは、大きく分けると3つのSTEPからできています。

**STEP.1** 問いをつくる

**STEP.2** 混沌をつくる

**STEP.3** ふり返る

このWORD JUNGLEでは、情報提供者の話や本やDVDなどからキーワードを拾い、それらをポストイットに書き出すインプットからのアウトプットを経て、ポストイットを切り口としてダイアログし、最終的に参加者それぞれがダイアログから気づきを切り取る、そういった流れの場を90～120分かけてつくり出します。

今回はSTEP.3のふり返るですが、ここではいかに自由にふり返りを言葉にもらえるかがポイントです。STEP.1とSTEP.2の流れを経て出来ている流れがあるので、場に質問を投げかけて時間の限り見守るだけで、それぞれが求めている答えを切り取ることができます。

まずは、この場を通じた大きな“問い”をもう1度投げかけます。ここでは少し時間をとって、紙などに書き出してもらってください。ここまでの流れをふり返りながら、その場のテーマを自分なりに切り取って言葉やイメージで表してもらいま

す。それに、その時間が内省の時間にもなるので、ここはゆっくりと考えてもらってください。

そして、そのままの流れで目標に対するふり返りを行います。大きな”問い”のふり返りに時間差が出ることが多いので、書けた人が表れてきたら、最初に設定した手に入れた成果と感情についてふり返ってもらいます。

この場が始まってから今の時間までで、”手に入れたものは何ですか？“、”手に入れられなかったものは何ですか？“、”それを手に入れるためにはどんな行動をとればいいですか？“などの質問を投げかけて、これもゆっくり紙に書き出してもらいながら内省をしてもらってください。

そのあとは、大きな”問い”を自分の言葉やイメージにしたものをその場でシェアしてもらいます。ここでは可能な限り全体でシェアできるといいですが、10人を超えると場が間延びする場合もあるので、そこは何度か場をつくってみて実際に体験してみてください。

ここまでくれば場は充分にあたたまっているし、何かを手に行っていることで落ち着いていることが多いので、発言に対しての拍手をきちんとすれば自然とことは進みます。発言する人の順番も場に委ねればよいので特にファシリテーターとしての役割はなく、場の流れをただ見守る、もしSTEP.1とSTEP.2の場づくりの結果を感じれるのはこのあたりになりますね。

僕は、大きな”問い”のふり返りの前に、”あくまでこの瞬間の切り取りなので、言葉にした直後に関わっても構いません”と言葉がけします。正解を見つける場ではないので。それに、そのあとシェアした時にまた気づきを得る方が多いですし、とにかく好きに言葉やイメージにしてもらおうこと、特にこのふり返りの時間に自分が大切にしていることです。

あと、混沌の状態にもよりますが、ひと晩寝て起きたあの方が整理されている方の割合も多く、翌日に気づきを得たというメッセージを何度もいただきました。それもあって、この場は”あくまでこの瞬間の切り取り“なのです。

ここまでで、STEP3 のふり返りは終了です。でも、できれば最後に次の一步を考えてもらい、それをふたり一組やテーブルごとにシェアして終了というのを付け加えてもらえると、テーマに沿った言葉やイメージを手にしたあとの行動を促すことにつながる宣言を行うことになります。

STEP1 でも書きましたが、この WORD JUNGLE は僕がファシリテーションをするうえで大切にしていることをカタチにしたものです。僕のファシリテーションの基本と言っても過言ではありません。問いをつくり発散して収束する、その流れをこのメソッドの中に表しています。

ファシリテーターは、コンテンツ(内容)ではなくプロセス(過程)に関わるとよく耳にしながら学んできました。その場をつくるとなると先生としてそこに立つ、そんな風に思う方も多いようですが、インストラクションとファシリテーションは同じ部分もありますが基本的には別ものです。

ファシリテーションの目的は、とにかくそれぞれが主体的に行動するために場を促すことだと僕は思っています。依存し合うのではなく、自立したもの同士が相互依存の関係をつくること、それを目指していく中で、僕はファシリテーションを選択し、それを自分の在り方として毎日を過ごすことを決めました、

答えを示せば示すほど依存が生まれやすく、示す側の人間も依存してくる人達に依存する、そんな関係も生まれてしまいます。20代の頃の僕は、まわりとにかく認めてほしかったので、依存され頼られることに喜びを感じてきました。でも今はそんな関係は求めていません。自分がいようがいまいが、それぞれが自ら輝ける、そんな場が作りたいたいですし、何より僕自身がそれを望んでいます。

また、正しさを議論する場ではなく、探求し合う場であるダイアログを通じて個人個人の持つ経験や才能、それに想いなどに自然と触れられる機会をつくり続けたいです。その先に、誰もが具体的には表現しない常識などの思い込みに流された議論ではなく、その場の明確な基準によって結論を決める場、それが広がるといいなと思っています。

実際、わざわざダイアログの場をつくって人を否定しても仕方ないし、否定されるためにその場に人が集る訳ではありません。中には否定されたい人もいるでしょうが、それはもしかしたら場をつくった人が投影されているのかもしれないですね。

人を否定しないためにも、まずは自分を否定しないしなないこと。人を理解するためにも、まずは自分を理解すること。そうすると自ずと目の前の場に表れる人達も変化していくことを今までつくってきたダイアログの場で実感しました。まさにその場に集ってくださった方々は、場をつくる自分自身の鏡です。

最後にもうひとつ。100人いれば100通りの価値基準があり、それをひとつの価値にまとめるにはまた別の要素が必要ですが、実はきちんとダイアログをした向こうにそれがあります。その向こうには、その場に集った人達の最大公約数、つまりそのメンバーの中で一番シンプル表せる価値基準があるのです。

僕は”よくそんなに場を信頼できるよね“と人から言われることがよくありますが、ここ最近、その答えとなるような言葉に出逢いました。それは”人が幸せになりたいと想うチカラ“です。その”人が幸せになりたいと想うチカラ“を信じているから、場を信頼して見守ることができるのかもしれない。

これは何より体験することだと思います。ですので、ぜひこのWORD JUNGLEの場を5回つくってみてください。そうすることで1度や2度ではかわらない、実際に腑に落ちたからこそ手にしているものが確実にあるはずですよ。